

「人間である私たちのため、

私たちの救いのために、

天からくだり」

(イテモテ2・4～6)

一、かわり続けられる神

ニカイア信条の一節でもありますが「人間である私たちのため、私たちの救いのために、天からくだり」を見てまいります。元の文章を直訳すると、次のようになります。「私たち人間たちのため、また私たちの救いのために天から降られた」と。この文章をじつと見つめますと、当時のキリスト教会が父・子・聖霊なる神をどのように信じたのかが見えてまいります。その第一は、神は、私たちに関心を持ち続けておられ、かわるうとしておられることです。神は天地万物を創造されました。すなわち、時間を造られ、空間を造られ、物質を造られ、命を造られました。造られた神は、…俗っぽい言い方になりますが、造りつ放しになさらないお方です。それは、天地万物のすべてにおいて言えますが、殊人間に関して、ご一緒に考えてみたいと思います。神は、私たち人間を造られました。すなわち、人であるアダムを造られ、アダムからエバを造られました。その際、神は人間であるアダムとエバに、罪を犯し得るほどの自由意志を授けられました。そして、罪を犯

しました。そういう説明を聞くと、ある方は、「罪のない人間が、どうして罪を犯すことができたのか？」と疑問に思うことではありません。ですが、「罪」とは、単に悪い思いや行いではありません。神に頼らず、自分で自分を律して生きることに、ひいては自分が神のようになることです。これが、キリスト教会の捉えている「罪」です。そういうわけで、罪のないアダムも、罪を犯すことができました。

話は元に戻りますが、人間はアダムにおいて神から離れ、罪人になりました。そうではあっても、かわり続けられるお方です。罪が赦される儀式をモーセに示し、律法が生まれました。これが、幕屋時代と神殿時代において続けられました。そして、時が満ちて、御子が人として遣わされました。すなわち、神が人となられたのです。しかも、仮の人ではなく、私たちと同じ人間となりました。そして、信じるだけで罪から救われる道をつくってくださいました。

二、御自身より進んで

では、キリストはだれのために死んでくださったのでしょうか。信じた者だけのためでしょうか。それとも、すべての人間のためでしょうか。答は、後者です。「私たち人間たちのため、また私たちの救いのために天から降られた」と、ニカイア信条が謳っているからです。

「私たち人間たちのため」とは、少々くどい表現です。「私たちのため」でも構わないのですが、その場合、「私たち」の範囲がはっきりしなくなります。「私たち」の範囲は「人間たち」です。「人間たち」とは不信者も含めての「私たち」です。では、キリストを拒む者、キリストに敵対している者も、自動的に救われているのでしょうか。そういうことは、考えられません。キリストが「私たち人間たちのため」に救いの道を備えてくださったとしても、それを拒み続ける者に「救い」がもたらされるとは考えられないからです。いずれにしても、主なる神は、何としても私たちを罪の下にある状態から立ち直らせたい、救いたい、しかも自分の意思で救いを選び取ってもらいたい、と願っておられます。

続いて、後半の「また私たちの救いのために天から降られた」ですが、この文章より、御子イエス・キリストが天から降られたのは自発的であったことを確認できます。聖書がそのように語っているからです(ピリピ2・6～8、1ペテロ2・22～24)。キリストは、自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。私たち罪人が救われるためにです。

三、仲保者として

神は、私たち人間に、罪を犯し得るほ

どの自由を与えられました。アダムは人間の代表として罪を犯したので、私たちは罪の下にいます。これが、キリスト教会のおおよその受け止め方です。そういうわけで、ニカイア信条と聖書から確認しましたように、神はかわり続けられるお方です。私たちが背いたからといって切り捨てることなく、忍耐を持って待ち望み、立ち返るチャンスを提供しておられます。この御性質のゆえに、私たちも御霊なる神に導かれて、主に似る者とされます。これにしましても、聖なる神と私共罪人との間の架け橋が必要です。神であられ、人となられた御子イエス・キリストは、聖なる神と罪人との間をつなぐ仲保者となってくださいました。

きょうの聖書箇所を見てまいります。テモテへの手紙第一2章4節～6節です。「神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。神は唯一です。また、神と人との間の仲保者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです。」とあります。

まさしく、人間である私たちのため、私たちの救いのために、天からくだりとのニカイア信条の告白を裏付けている聖書の言葉と言えます。